

深瀬 澄 (大阪経済法科大学経済学部教授)
山路崇正 (大阪経済法科大学経済学部講師)

**地域中小企業における雇用の
ミスマッチ問題の実証的研究(学生編)**
－大学生の職業観と就職活動に関する
予備アンケート調査の分析－

地域総合研究所紀要(大阪経済法科大学) No.7
pp.101～133 2015.3.

新規大卒者に対する求人倍率（求人総数／就職希望者数）は、大企業で1を割り込み選考から漏れる学生が多数いる。一方で中小企業の求人倍率は1を超え必要な要員を確保できない状況が続いている。

本論文は、長く続く中小企業の雇用のミスマッチが改善されない原因を実証的に解明することを目標としている。そのために、学生を対象にアンケートを実施し、そこから浮かび上がる行動分析から雇用環境の現状に対する影響を考察している。

まず、従業員規模別の求人倍率の推移から企業規模による雇用のミスマッチの進展傾向を指摘している。続いて、大企業と中堅・中小企業間の雇用ミスマッチに関連する主要な先行研究であるジョブ・サーチ理論をサーベイしている。この理論を十分検討してから実際の調査分析に移行していることから、最終的な分析結果の当てはめの段階で理論的な裏付けを行うことができる結果となっている。

調査は、大阪経済法科大学に在籍する学生を対象に実施し、有効な回答116名の結果を基に分析を実施している。

分析は、単純集計、多変量解析から構成されている。その中で筆者が作成したCSポートフォリオについては中小企業の雇用ミスマッチの要因分析として貴重なものとなっている。誌

面の関係上、特に注目すべき内容について紹介していく。

（1）大企業と中小企業の選択

大企業と中小企業のどちらに就職したいかという質問に対して、「大企業」と答えたのが7.8%、「中小企業」と答えたのが6.9%とほぼ同じ値となっている。「大企業+どちらかといえば大企業」の合計では27.6%、「中小企業+どちらかといえば中小企業」の合計は19.0%で特に大企業に集中した希望になっていないことが分かる。

（2）大企業選択者の思考

特に興味深いのは、「大企業」を選択した学生の選択理由で「給与がよさそうだから」、「福利厚生がしっかりしていそうだから」の重視度合はそれほど高くないのに対して「どちらかといえば大企業」を選んだ学生は相当高いレベルを示していることである。何となく大企業を選んだ学生は企業の本質ではなくイメージで選考していることが伺える。

（3）中小企業選択者の思考

「中小企業」を志望する学生で最も多いのが「就職がしやすそうだから」で37.5%となっている。これは、正社員として就職することを考慮し、企業規模より就職難易度を優先したと推定している。この指摘は、現状の日本社会における非正規労働者の増加と貧困の問題を学生自身が認識して企業選択を行っていることが想定できる結果といえる。

（4）就職先への期待度

本論文で最も注目すべき点は、多変量解析で大学生が就職先に期待する項目を①社員としての居場所、②魅力的な社員、③私生活充実へのメリット、④職場の和やかさ、⑤公務員的安定志向の5つの因子に分類して分析を試みている

ことである。その結果から、就活生が就職先に求めるニーズに対して、中小企業でそれを実現できる期待度が低い可能性を導き出している。特に学生が企業を選択する際に何を基準にするかを「中小企業での実現期待度のCSポートフォリオ」によって分析している点は興味深い。

CSポートフォリオでは、イメージアップとして優先すべき事項は、「福利厚生」と「チャレンジする機会」であること、逆に強みは「就職のしやすさ」、「堅苦しさが無い」、「昇格しやすい」であるという結果を導いている。中小企業が、この特徴を理解した上で自社の特性を活かした採用戦略の立案ができる結論を提示している点は、本研究の成果であるといえる。

今後、本研究の内容をさらに深め、中小企業の雇用のミスマッチが解消され、地域を支え、日本経済発展の原動力となる中小企業の人財の確保が達成できることを期待している。

(大阪産業大学経営学部准教授 井上仁志)